



◎ 本會理事會開催

六月一日午後五時から丸の内日本俱樂部に於て理事會を開いた。内田副會長を始め山田、長岡、松木、牧、廣瀬、中川、宮崎、池田の各理事及各幹事が出席した。

小島幹事昭和二年度事務報告の朗讀あつて、田中幹事から各件ごとに詳細なる説明あり、更に小島幹事から昭和二年度會計決算、昭和二年度特別會計決算の朗讀説明あり續いて田中幹事から昭和三年度歳入出豫算の各項目に就き詳細説明する處あつて審重協議された。更に本會會員總會を六月十一日前後に開催する。こゝに、役員改選に就いては常務理事に於て調査の上材料を會長まで提出すること等決定の

上午後八時半閉會した。

◎ 第九回定時會員總會及評議員會開會

客月二十一日午後三時から麴町區丸の内銀行俱樂部に於て本會第九回定時會員總會及評議員會を開いた。集るもの水野會長始め内田副會長、山田、松木、中川、佐上、比田池田、牧各理事の外評議員淺野總一郎、杉浦宗三郎、曾山親民、篠原英太郎、近藤達兒、中川吉造、若林成昭、山田博愛、木村清四郎、阪本彰之助、中野金次郎、物部長穂、橋本圭三郎、藤原俊雄、肥田景之の諸氏も會員古川阪次郎宮原國雄、近藤仙太郎、生田和平の諸氏が出席された。

水野會長開會を宣し本會が大正八年創立以來茲に十年を迎へたるを喜び、當時の東京市道路の現狀を追懐して今日のそれに比較し本會努力の效空しからざりしを語り、昭和二年度中に於ては本會財政の許す範圍に於て活動したるこゝを物語り、調査部の事業中山陽道並に九州四國に於ける國道改良計畫の調査及簡易鋪裝道に關する調査の完了し

たることを披露し、道路技術家の向上を圖るが爲に海外に囑託員を派遣し民衆の道路熱を喚起するが爲に講演會を開催したることを告げ、新年度に於ては更に調査事業の進捗を圖つて初期の事業を完成すべきを述べ、更に米國に技術官を派遣すること及夏期講習會を開催するの外東北五縣に於て道路改良講演會を開催すること、又は國道指定府縣道の交通調査を開始する爲に之が助勢方法を講じたる旨を續述して、從來受けた會員各位の協力を感謝し今後も尙一層の助力を望む挨拶があつた。

内務省土木局長宮崎通之助氏は、昭和二年度に於ける事務の報告を爲し幹事をして左記報告書を朗讀せしめた。

調査事業ニ關スル件

大正十四年度ニ於テ調査部ヲ設置シテ以來銳意道路改良ニ必要ナル各般ノ調査ニ盡ス所アリシカ輕易ナル路面鋪裝ノ調査及山陽道ヲ始メ四國九州ニ於ケル國道改良計畫ノ調査ハ漸ク完成ヲ告ケテ公表スルニ至レリ之ニ依リテ刻下

殊ニ其ノ急ヲ要スル路面輕鋪裝ノ方法ニ付テハ道路技術家ニ多大ノ指導ヲ與フヘク其ノ經濟的築造ヲ指示スル所アルヲ以テ其ノ施工ハ簡易化サレ路面輕裝ノ普及ヲ見ルニ至ルヘキヲ疑ハス又國道ノ改良計畫ニ至リテハ之ヲ關係當局ニ建議シ其ノ實現ヲ期スヘキヲ以テ國道改良事業ハ一段ノ進捗ヲ見ルニ至ルヘシ

技術員海外派遣ノ件

海外ニ於ケル道路工事並ニ之カ維持管理ノ狀況ヲ視察シ我邦道路ノ改良ニ資スルハ本會ノ多年企圖スル所ナリシカ漸ク之カ實施ノ機ニ際會セルヲ以テ兵庫、福岡兩縣當局ノ贊同ヲ得地方技師山本廣一、同坂本一平兩氏ニ囑託シテ上海香港等ニ於ケル道路工事並ニ維持管理ノ狀況ヲ視察セシムル所アリ兩氏ハ既ニ歸朝シ目下復命書ノ作製中ナルヲ以テ其ノ報告ヲ俟チ本會機關誌上ニ報道スル所アルヘシ

道路改良講演會ニ關スル件

道路改良ノ實現ヲ期スル爲ニハ之ニ關スル民衆ノ自覺ヲ喚起スルノ必要アルヲ以テ客秋十日間ニ互リ鳥取、倉吉、米子、福井、小松、金澤、七尾等ノ各地ニ道路改良講演會ヲ開催シ中川理事、茂庭評議員其ノ他幹事ノ講演アリ各地何レモ盛況ヲ呈シ相當效果ヲ收メタルモノノ如シ尙北海道及青森支部ニ於テモ道路改良鼓吹ノ爲講演會ヲ開催シ講師ノ派遣ヲ要求シ來リタルニ依リ幹事ヲ派遣シ函館、八雲、余市、瀧川、旭川、紋別、釧路、苫小牧、青森等ノ各地ニ於テ夫々講演シタリ

道路改良費豫算増額ニ關スル件

政府ノ道路改良費豫算ニ關シテハ從來屢次意見書ヲ提出シ之カ増額ヲ建議スル所アリシカ現内閣成立以來從來ノ道路改良計畫ヲ改訂スルノ外更ニ進テ地方産業上必要ナル道路改良ノ助成ヲ聲明スル所アリシヲ以テ濫濼顧問、山田理事ハ客年親シク内閣總理大臣及内務、大藏兩大臣ヲ訪問シテ右計畫ノ實現ニ付建議書ヲ提出シ道路改良事業ノ刻下極

メテ機宜ニ適シタル施設ナルヲ披陳シ是非共之ヲ實現セラレムコトヲ切望シタリ幸ニ政府ノ容ルル所トナリ前年度ニ比シテ三百五十萬圓ノ増加ヲ見タリシモ第五十四議會解散ノ爲遂ニ其ノ實施ヲ見ルニ至ラザリシハ頗ル遺憾トスル所ナリ依テ本會ハ既定ノ方針ヲ以テ更ニ新年度道路改良費豫算ノ増加ニ付努力スル所アラントス

雜誌頒布狀況ニ關スル件

本會機關雜誌「道路の改良」ハ卷ヲ改ムルコト爰ニ十回ニ及ヒ其ノ頒布ノ範圍ハ道路管理ノ當局ハ勿論道路交通運輸ノ實際家及關係諸團體並ニ道路技術者養成ノ學府等ニ及ヒ道路問題ニ關スル我邦唯一ノ冊子トシテ世ノ好評ヲ博スルニ至リ殊ニ交通經濟學ノ資料トシテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至リタルハ寔ニ欣快ニ堪ヘス今後益材料ノ精撰ニ勉メテテ斯界ノ期待ニ副ハムコトヲ期ス

會員及贊助員ノ狀況ニ關スル件

本會會員ハ前年ニ比シ二十名ヲ増加シ三百三十八名ヲ算スルニ至リシト雖贊助員ハ却テ三百三十五名ヲ減シ現在五千四百十九名ヲ維持スルノ狀況ニ在リ是レ主トシテ北海道、神奈川、兵庫、新潟、福井等ノ各地方ニ於テ一地方多キハ百餘名ノ退會者アリシニ由ルト雖又一面千葉、福岡兩縣ニ於テハ各百餘名ノ入會者ヲ得タルニ徴スレハ右贊助員増減ノ如キ必スシモ喜憂ニ値ヒセサルカ如シ今後ニ於テモ益本會趣旨ノ普及ヲ圖リ會員ハ勿論贊助員ノ募集ニ力メ以テ江湖ノ協力ヲ得ンコトヲ期ス

理事山田英太郎氏は、昭和二年度、會計報告及昭和三年度歳入豫算の概要を説明して協賛を求め、之に對し評議員坂本鈺之助氏は、本會會務が今日の發展を見るに至つたのは役員各位が奉公的盡力の賜であつて深く感謝する旨を述べて豫算案に賛成され満場一致可決した。

特別會員推薦の件は内田副會長の發議に依り小野義一、太田信治郎、加藤久米四郎、寛正太郎、加賀山學、榎木寛之、立川太郎、上埜安太郎、來島良亮、矢野敏吉、前川貫

一、小森七兵衛、秋田清、宮崎通之助、廣瀬壽助、平田紀一の諸氏を推薦すること、なり是も亦満場一致可決した。評議員任期満了に付互選の件は、内田副會長の發議に依つて會長から指定することに決定し、會長は井上準之助、池田成彬、池田圓男、犬塚勝太郎、池田宏、市瀬恭次郎、岩井重太郎、岩出惣兵衛、石渡敏一、伊藤武彦、原六郎、原田貞介、長谷川久一、服部金太郎、林博太郎、濱口雄幸、鳩山一郎、橋本圭三郎、八田嘉明、伴宜、畑英太郎、丹羽鋤彦、丹羽七郎、堀越角次郎、堀切善次郎、床次竹二郎、富田勇太郎、大橋新太郎、大川平三郎、岡崎久次郎、岡崎邦輔、岡野昇、小川平吉、大村銷太郎、織田昇次郎、岡崎國臣、大角岑生、種田虎雄、岡本英太郎、大口嘉六、小野義一、太田信治郎、和田龜治、渡邊勝三郎、若林成昭、渡邊鐵藏、川崎八右衛門、門野重九郎、各務鎌吉、神田鐵藏、金杉英五郎、各務幸一郎、片岡直温、河田烈、河津遠、角野庄太郎、垣見八郎右衛門、寛正太郎、加藤久米四郎、加賀山學、榎木寛之、吉田丹次郎、團琢磨、高木益太郎、武

當時敏、田中廣太郎、立川太郎、相馬半治、津村重舎、次田大三郎、根津嘉一郎、長岡外史、内藤久寛、中島久萬吉、成瀬正恭、那波光雄、中川正左、長岡隆一郎、直木倫太郎、中川吉造、中野金次郎、村井二郎吉、村松恒一郎、内田嘉吉、潮惠之輔、上埜安太郎、串田萬藏、日下部辨次郎、來島良亮、安田善三郎、山下龜三郎、山田英太郎、山本悌二郎、柳澤保惠、山田博愛、矢野亮一、矢野鉦吉、矢野恒太郎、松方巖、馬越恭平、松木幹一郎、増田義一、前田利定、松岡均平、牧彦七、松本學、前川貫一、藤山雷太、古河虎之助、古市公威、福澤桃介、藤原俊雄、福田又一、福田雅太郎、郷誠之助、小橋一太、近藤達兒、小坂梅吉、小森七兵衛、近新三郎、手塚猛昌、田昌、淺野總一郎、淺田徳則、有賀長文、赤星陸治、阿部吾市、青木周三、明石照男、秋田清、佐々木勇之助、佐上信一、阪本鈺之助、菊地長四郎、木村久壽彌太、桐島像一、木村清四郎、結城豊太郎、湯淺倉平、水野鍊太郎、宮崎通之助、志村源太郎、濫澤榮一、白石元治郎、島重治、篠原英太郎、土方久徵、比田孝一、

肥田景之、廣瀬壽助、平田紀一、元田肇、森村開作、茂庭忠次郎、物部長穂、關直彦、末延道成、杉原榮三郎、杉浦宗三郎、鈴木梅四郎、鈴木富士彌君を指名した。
監事及理事互選の件も中川正左氏の發議に依つて會長から指名することとし、盛會裡に閉會した時に午後六時、因に會長から指名された理事監事は左の通りである。

理事

水野鍊太郎、内田嘉吉、宮崎通之助、山田英太郎、松木幹一郎、中川正左、中島久萬吉、桐島像一、長岡隆一郎、堀切善次郎、佐上信一、牧彦七、寛正太郎、加賀山學、前川貫一、廣瀬壽助、物部長穂

監事 橋本圭三郎、大橋新太郎

◎ 本會の新事業確定

本會の會務は會員各位の聲援に依つて、今日の盛況を觀るに至つたのであるが、前に報道したやうに定時會員總會の議を経て昭和四年度に於ける新事業を決定した、今左に

其の新事業を紹介して其の實現を約する、會員各位も是等事業を十分利用せらるゝと同時に本會の至らざる點に就ては御指導を願ひたい。

(一) 調査部

前年度に引續き調査を續行するのであるが、前年度に於て第四調査科分擔の簡易舗装道三、第五調査科分擔の山陽道並九州四國に於ける國道改良計畫は完成したので、本年度に於ては其の殘部に屬する調査に着手するのであつて、其の調査項目は左の通である。

第一調査科

道路に關係ある法制に關する調査。

道路工事費特別賦課に關する模範準則の制定。

第二調査科

道路改良助成費に關する調査。

道路工事費特別賦課の成績調査。

自動車税に關する調査。

公共團體の道路費財源調査。

第三調査科

道路運送費輕減に關する調査。

道路交通用具改善の調査。

第五調査科

主要府縣道の選擇及其の改良設計に關する調査。

(二) 講習會

道路職員講習會は隔年毎に開催し多大の賞賛を博したが本年度に於ても亦東京に十日間開設のことに決定した、此講習は道路に關する事務及技術に關する我國唯一の權威あるものとして社會も評價し本會も亦それを自信するのであるが、本年度は眼先きを變へて新しい科目を増加する積りである、目下講師に交渉中にて科目や時間割等は近く本誌に依つて發表する。

(三) 講演會

道路改良の促進を圖るため本會の執行した道路改良講演會は、民衆の道路改良熱を喚起し、非常な好果を擧げたに鑑み、本年度は路政の餘り振はない東北方面の青森を除い

た五縣で開催することに決定した。

(四) 都市交通會議

現在都市に於ける交通施設を觀て改善を要する點が尠くない……云ふのは一般社會の聲であるが、扱て夫れを如何にすれば可いかと言ふ具體的問題に就ては餘り名案を持つ者が尠い、そこで手取早い東京市の交通施設に就て交通上要求される各種事項を調査研究の上、當局に其の實行を迫り又は一般公衆に對して其の必要を宣傳して、容易に施行せらるゝことに力を注ぐ計畫であつて、これが附議事項を大別するに左の通りである。

道路施設に關する事項

道路占用に關する事項

道路交通に關する事項

道路事務に關する事項

是で東京市を中心とする交通問題は調査部員の研究に依つて相當の改善の域に達するであらう相當の成績を擧げたならば漸を逐うて各都市のものを調査研究する計畫である

(五) 技術員海外派遣

道路技術官の智能を向上せしむる爲に、本會の企てた技術員海外派遣のことは、世上多大の賞賛を博し、前年度に於ては福岡縣の阪本土木課長と兵庫縣の山本技師の兩氏を煩はして香港、上海方面の道路を視察して貰つたが、本年度は更に視察範圍を擴張米國まで派遣視察せしむることに決定し、派遣者は目下幹事に於て人選中である。

(六) 交通調査

道路改良の計畫を樹立するに方つては、道路の交通現狀を調査し、夫れを基礎として將來の計を定めなければならぬのであるが、我が國に於ては其の調査が缺けてゐる、そこで今回國道指定府縣道四千箇所に就て交通情勢の調査を煩すことに決定した、夫れに就ては交通調査表を本會より送付し、是が事業に従事して呉れた人には記念メダルを贈呈する計畫である。

(七) 道路横斷設備調査

交通事故頻繁のため人畜の死傷さるゝことが尠くない、

之を未然に防止する方法として、差當り道路横斷設備の方法を研究する必要がある、此の設備は廣く一般公衆から懸賞の方法に依つて募集し、所謂衆智に解決案を求めむことを計畫である。

◎ 政府の道路改良に關する昭和三年度

追加豫算及昭和四年度豫算要求額の決定

政府に於ける道路改良計畫の改訂に基く助勢方針並第五十四回帝國議會の解散に因る昭和三年度豫算不成立に伴ふ對策に關しては、四月號の本欄に於て報道する所があつたが、今回當局に於ては昭和四年度豫算要求額を左記の通決定するに共に、産業道路改良費に付ては當初計畫したる通り昭和三年度より之を創設することとし、不成立豫算に計上せられたる二百萬圓を更めて昭和三年度の追加豫算として要求することに確定するに至つた。

一 昭和四年度道路改良費要求額 七百萬圓

一 同上 産業道路改良費要求額 三百萬圓

一 木曾揖斐長良川架橋繼續費昭和四年度支出額 七十萬圓

因に右道路改良費は改訂計畫に基く昭和四年度以降九ヶ年事業にして、其の總額は一億二千百萬圓（内事業費三百六十萬圓、補助費一億一千五百七十九萬九千六百圓、事務費より創設の計畫にして同年度以降十ヶ年事業、其の總額は六千二百四十三萬圓（内補助費六千七百七十九萬五千圓、事業費六十三萬五千圓）である。次に木曾、揖斐、長良川架橋繼續費は昭和四年度以降五ヶ年事業、其の總額は六百五十萬圓（内事業費六百三十萬二千三百圓、事務費十九萬七千七百圓）にして、本架橋箇所は三川相接し本邦中稀に見る大架橋事業に屬し、其の關係するところ愛知、三重の兩縣に互るを以て道路法第二十條の規定に依り内務大臣に於て工事を執行する計畫である。

◎ 地方土木主任官會議の召集

内務省に於ては來る七月十九日から二日間、地方土木主任官たる府縣土木部、課長會議を開かれることに決定した

同會議は地方長官會議及警察部長會議と共に毎年召集される重要會議の一であるが、昨年は事務の都合で開かれなかつたので今回は附議せらるゝ問題も相當多い模様である。而して路政に關する議題は左記の通りであつて、殊に諮問及協議事項は何れも當面の重要問題である。

指 示

- 一 道路交通調査ニ關スル件
- 二 國道及府縣道ノ維持修繕ニ關スル件
- 三 府縣道路線認定申請ノ調査ニ關スル件
- 四 自動車専用道路ニ關スル件
- 五 道路標識ノ普及ニ關スル件

諮 問

- 一 重要府縣道ノ改良順序ニ關スル件
- 二 道路工事受益者負擔金制度ノ運用ニ關スル件
- 三 道路損傷負擔金制度ノ運用ニ關スル件
- 四 一定ノ路線ニ據ル自動車營業ノ免許ト道路管理權トノ連絡ニ關スル件

協 議

- 一 道路ト平面交叉ニ關スル件
- 二 道路占用工事ノ施行ニ關スル件

◎「本邦道路橋輯覽増補」の紹介

橋梁を架設するのにはどの位の費用が懸るか、どんな型式が可いかと言ふことは路政當局が常に悩む所であるが工事費は地勢やら材料や構造夫れから勞銀如何に依つて定まる問題であつて一概に算定することが出来ない、又型式にしても歴史的の趣味や趣向に依つて一定したもので無い、併しながら夫れを概算し又は選擇するに就ては、成る可く多數の架橋事實に就て大體の觀念を得ることが必要である。此意味で大正十四年内務省土木試験所は百四十餘橋の型式構造及其の經費を調査編纂して「本邦道路橋輯覽」を刊行し世上多大の賞賛を博した。

今回之が増補を發行した、集録するものは大正十四年十二月以來架設せられた新橋梁五十一種であつて、主に復興

事業として架せられた橋梁を道路構造令の規定に依つて施工された國縣道橋を選択してゐる、従つて本書に依つて本邦道路橋の新状態を窺ふことが出来る、であるから道路橋梁の技術に従事する士の參考資料と爲るのは勿論であるが市町村長の職に在る者又は其の議會の議員たる者や府縣會議員等の豫算を編制したり審議する官職に在る者が冒頭に述べたやうな問題を解決する爲には本書は唯一の參考資料であつて、夫等の人々に特に本書を推薦するのである(た)

◎ 出版報告

本會が大正十四年度に於て調査部を設け、各専門家を調査委員に擧げて、路政調査のことに方つたが、今回其の内の第四、第五兩分科の調査を完了したので、其の結果を収録し刊行した。

其の第一は道路構造調査書の第一編たる「簡易舗裝道」である。本書はこれを七章に分ち、水縮マカダム道、テルフオード・マカダム道、準テルフオード・マカダム道、水

縮砂利道、瀝青塗裝道、瀝青マカダム道等の簡易舗裝道に就て、定義、材料、築造方法、及單價算出表等詳細なる調査を記録した。殊に第一章には簡易舗裝道に關する一般技術に關する基礎的意見を述べて居る。之等は各専門委員の熱心な調査に依るものであつて道路技術家の是非一讀すべき良書である、是は本會々員に限つて無代配付するが賛助員に對しては實費を以て配付するから本會に申込まれたい。

其の第二は本調査書は山陽道、九州、四國に於ける國道を實地に調査して其の改良意見を定めたものであつて、これを十三章に分け、第一章に於ては現在國道の狀況を述べ第二章に改良計畫總説を縷述し、第三章以下に於ては各國道の改良計畫を報告し、卷末には改良路線圖を添付した、是等の計畫は専門家の委員と内務省第一技術課の道路技術官が、數回會合して決定した意見であつて、道路の現状に捉はれず、さりとて空想に走らず樹立された計畫で國道沿線に従事する路政當局の是非とも一讀を要するものである。賛助員には實費を以て分配するから本會に申込まれたい。